

落ち葉を拾うもよし 拾わぬもよし

と言ったそうです。

私たちは、「いつか、まとめて」

仕事を片付けようと思っ

す。掃除をするのも、「いつか、

まとめて」です。しかし、それは

怠惰のところで、そんな考えで

いれば、「いつか」は永遠にやっ

こないでしょう。落ち葉を一枚

拾えば、確実に一枚だけきれい

になっています。今、一枚拾う気

持ちが大事なのです。ただこ

の話だけをすれば、誤解を招

くかもしれません。仏教は、落

ち葉を見つけたら拾ってまわり

なさいと、そんな道徳を教えて

いるわけではないのです。

落ち葉は微生物によって、時間

をかけて分解され、土に養分を

供給することによって、新し

い芽や葉を作る要素になるそう

です。仏教では、すべての物事に

対して、良い・悪いはないと説か

れています。私のはからいが

良い悪いを分別してしまうので

す。仏教の教えを頂くならば

落ち葉を拾うもよし、拾わぬも

よしということでしょうか。

二十一世紀の現在になって世

界中で「SDGs(持続可能な開

発目標)」が提唱され、脱炭素

社会を目指しています。しかし

ながら、二千五百年前のお釈迦

さまの時代から、仏教では、そ

れを実践してきました。今を生

きる私たちもまた、この教えを

引き継いで実践をして、次世代へ

残していきたいものです。

(まんだら人生論 参照)

今年になって コロナのオミクロ

ン株の蔓延によって第六波は過

去最高の感染者数となっていま

す。さらに新たにステルスオミク

ロン株に変異しているといわれて

います。いつになったら終息す

るのでしょうか。

とはいいながら、季節は日一

日と変化していき、木々も落

ち葉だけとなっています。落ち

葉を誘う風を、「落ち葉風」とい

うそうです。小林一茶の句に、

焚くほどは 風がくれたる

おち葉哉

があります。落ち葉というもの

は、次から次へと降ってきます。

ある禅僧が、弟子を連れて庭

を歩いていました。パラリ、パラ

リと落ち葉が舞い落ちます。禅

僧はそれを一枚一枚拾っては、

袂に入れていきます。それを見

て 弟子が言いました。「和尚

様、やめて下さい。のちほど わ

たしが掃きますから」と。これ

を聞いて、禅僧は弟子を一喝し

て、「馬鹿者。のちほど……で庭

が美しくなるか！ 一枚拾え

ば、一枚だけ美しくなるんだ」